



認定特定非営利活動 (NPO) 法人 柔道教育ソリダリティー

Newsletter vol. 14

Certified NPO – Solidarity of International Judo Education

①モンゴル男子柔道選手ら(神奈川県・東海大学) ②春日俊氏とアディエル君(イスラエル・カサレア) ③新聞取材を受ける山下理事長(ロシア・サンクトペテルブルグ)
④日中友好青島柔道館高校生チーム(福島県・会津若松城) ⑤ロシア女子柔道指導者(神奈川県・大山) ⑥柔道教室(中国・日中友好南京柔道館)

国際的な柔道の普及—「自他共栄」を実現するために

— To promote the international popularization of judo and realization of *jitakyoei* (mutual prosperity for oneself and others).

現在、国際柔道連盟(IJF)には、200の国と地域が加盟しています。柔道は、一流競技者から一般市民に至るまで愛好され、各国の文化的特性と融合しながら創始者嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。

柔道を通して日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたい

— We communicate the Japanese spirit.

昨今の国際情勢を見ると、紛争やテロ、地球環境の劣化、南北格差の拡大、人口増加など問題が山積みされています。そのような状況の中、一部の発展途上国では柔道の指導者、道衣、畳、教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状があります。柔道の国際的普及、振興に努めていきます。

今、大切なことは、子どもたちをいかにして育てていくか

— Educate youth through judo.

柔道を通して世界中の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することの近道と考えております。これからの社会を担っていく青少年を、柔道を通して育てることが大切であると考えております。



認定特定非営利活動法人
柔道教育ソリダリティー

認定特定非営利活動法人

柔道教育ソリダリティー会報第14号

2013年9月1日発行 Published 1st of September 2013

発行人: 山下泰裕

発行所: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

東海大学 体育学部 柔道研究室

Address: 4-1-1 Kitakaname, Hiratsuka-shi, Kanagawa

Japan, 259-1292

T E L : 0463-58-1211 (内線3524)

F A X : 0463-50-2230

Email: judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

Vol. 14

<http://npj-jks.jp>

柔道 友情 平和

検索

※柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁の認定を受けました。本法人へのご寄付は、寄付金控除、損金算入などの税の優遇措置の対象になります。

柔道教育ソリダリティー役員

Official of Solidarity of International Judo Education

2013年5月31日開催の第8回通常総会で役員が承認されました。就任期間は、2013年7月1日～2015年6月30日の2年間です。

理事長

山下 泰裕 ((学)東海大学理事・副学長、全日本柔道連盟副会長)

副理事長

橋本 敏明 ((学)東海大学常務理事・体育学部教授)

理事

上治 丈太郎 (ミズノ(株) 相談役)

小田 全宏 (NPO法人日本政策フロンティア 理事長)

小林 昭夫 ((株)博報堂DYメディアパートナーズ 取締役執行役員)

仙石 通泰 ((株)三技協 代表取締役)

早川 信正 (早川繊維工業(株) 東京支店 専務取締役)

蓑宮 武夫 ((有)みのさんファーム 代表取締役)

小川 郷太郎 ((株)絆郷 代表取締役)

加藤 暁子 (日本の次世代リーダー養成塾 事務局長)

阪 和彦 (アスカコーポレーション(株) 代表取締役)

高木 善之 (NPO法人 ネットワーク「地球村」代表)

中村 潔 ((株)電通 取締役)

矢野 弘典 (中日本高速道路(株) 顧問)

監事

小出 将恵 (小出会計事務所 所長)

金子 正志 (金子正志法律事務所 所長)
(50音順)

主な活動 (2013年1月～2013年6月)

- Major Activities -

年 月 日	事 業 内 容
2012年12月～2013年6月	ロシアより女子柔道指導者エレナさん、カーチャさんを受入(東海大学等)
2013年1月	リサイクル柔道衣50着がサモアに到着(サモア・アピア)
2013年1月31日～2月13日	春日俊氏をイスラエル・パレスチナに派遣(イスラエル・パレスチナ)
2013年2月8日～14日	日中友好青島柔道館チームが来日、女川町旗三春柔道大会に参加(福島県・三春町等)
2013年3月1日～29日	モンゴルより男子柔道選手3名を受入(東海大学等)
2013年3月2日～31日	ミャンマーより男子柔道選手5名・監督1名を受入(東海大学等)
2013年3月14日～17日	山下泰裕理事長・浅井信幸ロシア交流担当をロシアへ派遣(ロシア・サンクトペテルブルグ)
2013年3月21日～28日	日中友好南京・青島柔道館へ朝飛大氏及び学生ボランティアを派遣(中国・南京及び青島)
2013年4月22日～5月4日	海軍士官学校及びジョージタウン大学へ塚田真希さんを派遣(アメリカ・メリーランド州)
2013年6月	リサイクル柔道衣50着がエルサルバドルに到着(エルサルバドル・サンサルバドル)
2013年6月	リサイクル柔道衣20着がラオスに到着(ラオス・ビエンチャン)
2013年6月23日～7月4日	日中友好南京柔道館チーム29名を受入(東海大学等)
2013年6月26日	東海大学日本語別科の留学生を対象に、柔道体験教室を開催(東海大学)

①



②



① 日中友好南京柔道館で子供たちの指導をする朝飛大氏

② リサイクル柔道衣の発送作業を行う東海大学柔道部の学生ボランティア

① Mr. Asahi teaching children at the Japan-China Judo Friendship Center in Nanjing

② Student volunteers of Tokai University Judo Club preparing to send recycled judogis

日本の心、柔道を世界へ伝えるために

柔道用品(柔道衣・畳)の支援

2012年度は、柔道衣480着、畳214.5枚を(11カ国)を送りました。



2012年7月に送付したリサイクル柔道衣50着が、2013年1月にサモア・アピア市に到着しました。国際交流機構(JICA)青年海外協力隊として活動を行っている茂木慎太郎氏を通しサモア柔道連盟に贈呈されました。

In January 2013, 50 recycled judogis that we sent in July 2012 arrived in Apia, Samoa.

JICA青年海外協力隊 茂木慎太郎氏より報告です

この度はリサイクル柔道衣を寄附して頂き誠にありがとうございました。南太平洋に浮かぶ島国サモアで柔道衣は、裕福な家庭でない限り買うことができないとても貴重な品物です。寄附して頂いたリサイクル柔道衣のおかげで多くの生徒がこれから柔道を始めることができると思います。道場の子どもたちも練習相手が増えると喜んでおります。

柔道教育ソリダリティー理事長であります山下先生、申請にてお世話になりました事務局の皆さま、柔道衣の梱包作業から発送まで行っていただいた東海大学のボランティアの方々に感謝申し上げます。現在、サモア柔道協会では柔道の普及活動を学校単位で行う計画をたてています。これからも、お世話になることがあると思います。よろしくお願いいたします。



リサイクル柔道衣を受け取ったサモアの皆さん



2013年3月に送付したリサイクル柔道衣50着が、同年6月にエルサルバドル・サンサルバドル市に到着しました。JICA青年海外協力隊として活動を行っている藤後あさみさんを通し、エルサルバドル国立大学及びサテリテ道場に贈呈されました。

In June 2013, 50 recycled judogis that we sent in March of the same year arrived in San Salvador City, El Salvador.

JICA青年海外協力隊 藤後あさみさんより報告です

2013年6月に私の活動先である、エルサルバドル国立大学と、サテリテ道場にリサイクル柔道衣が届き、選手たちに配布することができました。各道場に贈呈式を行い、現在たくさんの選手たちが正規の柔道衣を着て、稽古に取り組むことができています。

贈呈式で、とても驚くことがありました。それは、一人一人に柔道衣を手渡した時、すべての子どもたちが、正座をして、しっかりと礼(お辞儀)をして、柔道衣を受け取ったということです。私が指導し始めた頃は、礼もできなかった子どもたちが、稽古中はもちろん、物をもらう際に礼ができるようになりました。驚くとともに、嬉しく、感動いたしました。

開発途上国では、柔道衣は貴重で皆の手に渡るものではありません。道場に、寄附していただいた柔道衣を嬉しそうに持ってくる子どもたちの笑顔はとても素敵でした。

山下先生をはじめ柔道衣送付を支援してくださった皆さま、本当に感謝しております。ありがとうございました。今後も、日本からの柔道衣を着て、エルサルバドルの柔道家たちが、稽古に精一杯励んでくれることを、期待します。



柔道衣を受け取り嬉しそうなサテリテ道場の子どもたちと藤後さん



2013年1月に送付したリサイクル柔道衣20着が、同年6月にラオス・ビエンチャン市に到着しました。JICAシニア海外ボランティアとして活動を行っている坂東雅邦氏を通しラオス・日本武道センターに贈呈されました。

In June 2013, 20 recycled judogis that we sent in January of the same year arrived in Vientiane City, Laos.

2009年に日本の政府開発援助(ODA)により設立された「Lao Japan Budo Center(ラオス・日本武道センター)」で活動を行うJICAシニア海外ボランティア坂東雅邦氏のご協力の下、ラオスの子どもたちにリサイクル柔道衣20着を贈呈しました。坂東氏の活動は、2003年～2010年にわたりラオス柔道の発展に尽力されました菊池正敏氏から続いています。本法人では、2008年に学生ボランティア1名を派遣、同年に男子柔道選手3名を受入れました。

ラオスでは、東南アジア競技大会(SEA Games)の柔道競技で多くの選手がメダルを取るなど、柔道競技が盛り上がり、競技人口が増えています。今後もラオス柔道が発展するよう応援させていただきます。



リサイクル柔道衣を手渡す坂東氏

外国への指導者派遣事業



2013年1月31日～2月13日の期間、立命館大学柔道部監督の春日俊氏をイスラエル及びパレスチナに派遣しました。

Mr. Shun Kasuga, Coach of Ritsumeikan University Judo Club, was dispatched to Israel and Palestine from January 31 to February 13, 2013.

立命館大学柔道部監督 春日俊氏より報告です

Israel



イスラエルで柔道指導を行う春日氏



練習後、タルバズ柔道教室の皆さんと海岸で

イスラエルのベングリオン(テルアビブ)空港に着くと日本大使館職員の出迎えを受けた。パスポートにスタンプする代わりに既に準備されていた小さなカードのような紙片を手渡された。それは、私のパスポートに記録が残らないという事情からであった。空港には日本で研修を行ったベル氏、パレスチナ柔道連盟副会長のジアド氏がわざわざ出迎えてくれて恐縮した。エルサレムのホテルでは、サニックス旗に参加していたレズミ氏、彼の息子で東海大学で合宿したこともあるというアディエル君が、夜遅くにもかかわらず私の到着を待っていてくれた。

イスラエルでは、カサレアという地中海に面したスポーツ施設での少年少女中心のトレーニングキャンプ、レズミ氏が主宰するタルバズ柔道スクール、イスラエルで唯一柔道を正課としているセリグスベルグ高校などで指導を行った。テルアビブ郊外では、ウینگート(ナショナルトレーニングセンター)においてジュニア選手を中心に指導する機会も得た。

イスラエルでは、どこへ行っても日本の道場と同じような柔道量が敷かれており、それぞれ熱心な指導者の下、生徒たちはとても明るく活発な練習が行っていた。指導内容に特別な注文はなかったが、対象の多くが少年少女であったため、投げ技、固め技ともに基本を意識した指導をした。タルバズ柔道スクールのレズミ氏は、彼の弟ベニー氏と共に10以上のクラブを運営し500名を超える生徒数を誇る柔道一家で、とにかく熱心であった。そのレズミ氏兄弟をサポートする指導陣も見ると優秀な顔ぶれが揃い、このような指導者がいる限りここでの柔道は安泰と思わせるほどだった。指導者の話に「ハイッ、先生！」と、日本人よりもハッキリとした大きな日本語で答える生徒たちの姿を頼もしく感じた。

Palestine

8日目から、パレスチナ柔道連盟ハラビ会長とジアド氏の2人と常に行動を共にしながらジェリコ、ベツレヘム、エルサレムで指導を行った。ここでの対象は子どもと大人が半々で、東京の大学で練習した実力者もいた。ただ、柔道は少し荒っぽく指導者に空手の有段者が多いためか、イスラエルの「ハイッ、先生！」から一転「オッス、オッス」という言葉が飛び交い、私も同様に応えながら苦笑した。

パレスチナでも生徒たちはとても真剣で、どこでも力の入った練習が展開されていた。大人の中には柔道の形の指導を希望する者も多く、会長の要請により講道館護身術を指導した。ただ、訪問した道場は柔道量ではなく柔らかいマット状の物を使用しており、つま先をひっかけることが多く安全に気を遣わなければならなかった。

ベツレヘムの道場では、日本で研修したモニエル氏が大きな体を折るようにして、小さな子どもと組み合っている姿が微笑ましかった。イスラエルと違って、パレスチナは柔道の環境面で見劣りがした。訪問した道場では、一人の指導者が少年から大人まで同時に指導しているため、年齢や技能差が大きく指導に苦労していることが想像できた。しかし、子どもたちの身体能力には見るべきものがあるため、指導者を増やし効率のよい指導が実践されれば将来がとても楽しみであると感じた。

パレスチナ滞在中に、オリンピック委員会長と懇談する機会にも恵まれた。会長より、柔道は強化最優先の競技であるから、今後も引き続き日本から指導者を派遣してほしいと要望があった。昨年のロンドンオリンピックに初めて選手を送り出すなど、柔道に対する期待の大きさも十分に感じ取ることができた。ナブルスという町にある学生数3万人超の国立大学体育学部の授業に柔道を採用するよう働きかけているようだ。



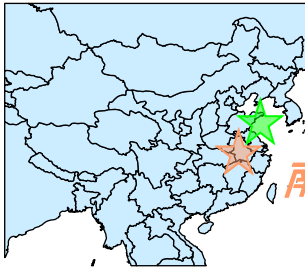
パレスチナ・ベツレヘムの道場にて、左端は日本で研修を行ったモニエル氏



パレスチナオリンピック委員会を表敬訪問

今回の柔道指導では、かつてない充実感を全身で感じる事ができたように思う。当初、柔道を通した平和活動に貢献する使命を持って！と私は粋がっていた。柔道は確かにそれを可能にするとは信じているが、実際に紛争の絶えない現地に入って双方の言い分を聞き、街の真ん中にそびえる決定的な壁を目の当たりにすると、そのことがとてつもなく難しいであろうと実感した。

私たちにできることは、現地で柔道に取り組む子どもを一人でも増やし、これまでの活動を継続し推し進める努力をすることであろう。そうして、子どもたちが大人になった時に、少しでも考え方が変化する可能性があるのではないかと考える。柔道の精神が根底にある限り、何らかの形で良い解決の糸口が見つけれられるのではないかなと思う。行く時の複雑な思いから一転、何か手ごたえを感じながら帰って来ることができたことを嬉しく思う。



青島
南京

2013年3月21日～28日の期間、朝飛道場館長の朝飛大氏と学生ボランティア2名を中国、南京市「日中友好南京柔道館」及び青島市「日中友好青島柔道館」に派遣しました。

From March 21 to 28, 2013, we dispatched Mr. Dai Asahi, President of Asahi Dojo, and two student volunteers to the Japan-China Judo Friendship Centers in Nanjing and Qingdao, China.

朝飛道場館長 朝飛大氏より報告です

初めに南京市を訪れました。中国ナショナルチームは、体育学校(日本での高等学校)入学後、柔道を始める選手が多いそうです。これは他の競技でも同じで、生徒の適性を見極めて各競技に振り分けるという、日本とは全く異なるスポーツの始め方でした。比較的遅いと思われる16歳～17歳から柔道を始めた選手が多い中、特に女子柔道において「なぜ多数の五輪、世界選手権のメダリストを輩出できるのか」大変興味がありました。

南京女子強化選手の練習に参加すると、集中力が素晴らしく、一本一本が試合そのもので、無駄のない、内容の濃いものでした。また、ウエイトトレーニングは男子顔負けの重さをこなし、フィジカル面を強化し、研究するなど意識の高さを感じました。多くの選手は、日本柔道に対して尊敬を持っており、私たちに対しても日本の指導者ということだけで多くの質問をしてきました。

日中友好青島柔道館では徐殿平先生にお会いすることができました。徐先生は道場がない頃、砂浜で柔道の練習を行うなど、「砂浜から世界へ」を合言葉に200人もの門下生を指導したそうです。その情熱、指導力が皆の心を動かし、学校道場を提供してもらい、青島からオリンピック銀メダリストなどの選手を輩出することとなりました。

徐先生の指導は、子どもたちの目線になり、明るく楽しい雰囲気の中で、礼儀正しく美しい柔道を心がけておられました。常に皆に気を配り、自分の事は後回しにしてまでも周りの人を楽しませたい、という姿勢は指導者としてだけでなく、人間としての魅力そして憧れを感じました。

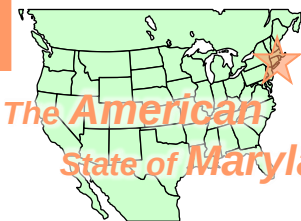
最後にこのような素晴らしい訪中の機会を与えていただきました山下先生、徐先生、常東先生、王華先生、お世話になった皆様に心より感謝するとともに、御礼申し上げます。



日中友好青島柔道館で指導を行う朝飛氏



日中友好南京柔道館では、練習試合を行った



The American
State of Maryland

2013年4月22日～5月4日の期間、塚田真希さんをアメリカ・メリーランド州の海軍士官学校及びジョージタウン大学に派遣しました。

From April 22 to May 4, 2013, Ms. Maki Tsukada was dispatched to the United States Naval Academy in Maryland and Georgetown University in Washington D.C., U.S.A.

塚田真希さんより報告です

2013年4月22日から5月4日の約2週間、アメリカでの柔道指導の機会を頂き、ジョージタウン大学ワシントン柔道クラブとアナポリスにある海軍士官学校で柔道指導を行いました。

ワシントン柔道クラブは、週に月・水・金と練習があり、ジョージタウン大学の学生をはじめ、一般の参加者まで幅広い分野の人が一緒に汗を流すアットホームな雰囲気の柔道クラブでした。

練習時間の一部を技の講習にあててもらい、そこで自分の技を披露、説明する形をとらせていただきました。クラブの会員の大半が、仕事をもち、仕事の後に練習に来ていましたが、その仕事の肩書が弁護士や、外交官などの人たちもいて、その幅の広さが印象的でした。私にとっても、自分が技を習得した環境と違う中で、どのように技の説明を行うのが良いのか考える機会となりました。

2週目の火曜日と木曜日には、アナポリスにある海軍士官学校の練習に参加させていただきました。学校の道場には、2010年に井上康生先生が訪問した時の写真が飾られていました。井上先生の訪問により、柔道部が同好会から正式なクラブになったそうです。その後、片淵一真氏、大川康隆氏が、柔道指導に訪れていて、彼らの指導を受けた学生が残っており熱心に柔道の稽古に励んでいました。道場に到着して練習が始まるまで待機している学生がいたので、一人打ち込みのやり方とポイントを説明しました。限られた時間の中で、相手がいない状況でも技の習得が可能だということを伝えられたためです。退屈と思われがちな練習方法ですが、興味深く聞いてくれ、これからも続けてみるという言葉ももらいました。

今回、このような交流に参加できたことを大変光栄に思います。アメリカの文化に触れ、充実した時間を過ごすことができたのは、滞在中にお世話になった古森義久様、古森スーザン様のおかげです。最後に、このような機会を与えて頂いたことに、感謝すると同時に、この交流がいつまでも続いてくれることを願います。ありがとうございました。



海軍士官学校の道場にて柔道クラブの皆さんと



ジョージ大学ワシントン柔道クラブの皆さんと

学生ボランティア派遣

2013年3月21日～28日の期間、学生ボランティアとして本間大地君、川野聖人君を中国、南京市「日中友好南京柔道館」及び青島市「日中友好青島柔道館」に派遣しました。

Two student volunteers, Mr. Daichi Honma and Mr. Masato Kawano, were dispatched to the Japan-China Judo Friendship Centers in Nanjing and Qingdao from March 21 to 28, 2013.



日中友好南京柔道館には多くの子どもたちが集まった



日中友好南京柔道館で形を披露する本間君(左)と川野君(右)

東海大学体育学部武道学科 川野聖人君より報告です

私は、松前柔道塾で少年指導をしています。指導では、自分の経験を伝えることも重要ですが、子どもたちへの接し方、危機管理、状況判断、どの指導方法が最善であるかを常に考えています。今回、日中友好柔道館に派遣していただき、現地での指導体験、同行して下さった朝飛先生の指導方法、柔道への考え方について学ぶことができました。

中国の子どもたちや柔道選手は、強い弱いに限らず多くの人が意欲的に指導されたことを覚えようとする姿勢がありました。どの道場で指導しても、小学生から大人まで、詳しく教えて欲しいと様々な質問が出るなど、練習の意識の高さに驚きました。南京市での男子強化選手の練習は、1時間半と短く練習内容はシンプルでした。女子の練習は、部分稽古や一本勝負といった細かい練習内容で練習時間も男子に比べると長く、質の高い練習を行っていました。中国女子柔道選手がオリンピックや国際大会で結果を出していることに納得がいきしました。

私は現在の中国に対して大気汚染や日中間の様々な問題があり、決して良いイメージを持っていませんでした。しかし、実際に訪中すると現地の人が優しく接してくれ、歓迎してくれました。

中国での指導は、朝飛先生を中心に計画し実際に指導を行いました。ポイントをつかんだ的確な指導、ユーモアあふれる楽しい練習方法など朝飛先生の下でたくさんの事を学ぶことができました。そんな先生でも子どもたちや選手の指導方法に何が最善であるか悩んでいると言う話を聞いた時は驚きました。現在、多方面で指導の在り方が話題になっています。体罰やパワハラ、指導者と生徒の関係性、どこに趣旨を置いて指導していくのか難しい問題だと感じています。

中国での指導体験は、海外の人と関わることの少ない私に、柔道が人と人をつなぐものであると考えるきっかけを与えてくれました。様々な事に関して自身の視野が広がったと感じています。今回の経験が松前柔道塾での指導や今後の自分自身の柔道に影響があると考えています。これらの経験を活かしていきたいと考えています。

東海大学体育学部武道学科 本間大地君より報告です

私は3月21日から28日の8日間、中国(南京・青島)に柔道指導のために派遣されました。初めての柔道指導でしたが、中国の方々が優しく迎えて下さり無事に指導を行うことができました。言葉が伝わらなくて上手に指導が出来ない部分はありましたが、明るい子どもたちの中でコミュニケーションが取りやすかったです。

南京では、中国の強化選手と練習をさせていただきました。中国の選手は日本人と違って体の柔らかさや力強さがありました。普段練習をすることのない相手と練習することができ良い経験となりました。練習のメニューも日本と違い、短い時間で集中力や質の高い練習を行っていました。子どもたちの練習は、初心者の子どものが多く、基礎練習が主に行われていました。子どもたちを指導すると、一つ一つの事を真剣に聞き、時には質問をしてくるなどとても熱心でした。練習最後には、レクリエーションで試合を行いました。

南京では南京大虐殺のお寺なども見学させていただきました。そこには、日本と中国の根深い問題や戦時中の日本が行った事などが展示されていました。

24日より青島で柔道指導をしました。青島柔道館は、柔道経験がある子どもたちが多く、技の指導なども行いました。青島では、地元の小学校に招いていただき、「柔道体操」と言う柔道の技を取り入れた体操を見せていただきました。青島では、小学校に柔道場があるなど、日本ではあり得ないような光景があり、柔道が学校教育の一環であると感じました。

今回の中国の柔道指導を通して感じた事は、中国の柔道は日本の柔道よりも進んでいる部分があるということです。青年の練習は短期集中で行うことで、練習のストレスが少なく、より良い練習が出来ること。柔道に対し真摯に向き合い吸収しようとする姿が印象に残りました。子どもたちの指導では、指導者が上から指導するのではなく、笑顔で指導を行っていました。子どもたちは、とても楽しそうに練習を行っていました。このような環境だと柔道を続ける子どもたちが多いのではないかと思います。

柔道や通訳などで多くの人に優しくサポートしていただきました。最後にこの柔道指導をサポートしていただいた人達に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



青島市内の小学校でも柔道指導を行った



日中友好南京柔道館の子どもたちに、柔道指導を行う本間君

柔道で日本の心を世界へ伝えるために

日中友好青島柔道館

2013年2月8日～14日の期間、中国・青島市「日中友好青島柔道館」より高校生7名、役員及びコーチ4名、計11名が来日し、第7回女川町長旗争奪復興支援全国高等学校選抜柔道練成三春大会に出場しました。

From February 8 to 14, 2013, 11 high school students from the Japan-China Judo Friendship Center in Qingdao, China visited Japan and participated in the 7th National High School Judo Competition at Miharu for Onagawa Mayor's Flag for Reconstruction Assistance.



初めて海外の試合に出場した青島柔道館チーム



女川町教育長から記念品をいただきました

日中友好青島柔道館の高校生選抜チームが2月8日～2月14日まで来日し、2月10日(日)に開催された第7回女川町長旗争奪復興支援全国高等学校選抜柔道練成三春大会に出場しました。この大会は、東日本大震災までは「女川町長旗争奪全国高校選抜柔道練成大会」として福島県女川町で開催されていましたが、震災後、女川町での存続が難しくなり「第7回女川町長旗争奪復興支援全国高等学校選抜柔道練成三春大会」と名称を変え、三春町で2年前から開催されています。

大会出場は、福島県三春町からの支援を受け、本法人が後援をさせていただきました。大会継続にご尽力されている福島県立田村高等学校の下山田恵一先生の多大なご協力の下、青島柔道館チームを招へいすることができました。

大会はリーグ戦形式で、青島柔道館チームは、東海大学付属第五高校、旭川龍谷高校、田村高校と対戦しました。善戦しましたが1勝もできずに終わりました。出場したザン君は、「来日は5回目だが、初めて日本の大会に参加し、日本の高校生が強いことに驚いた。帰国したらもっと柔道の稽古に励みたい」と感想を述べました。また、初来日のシェエ君は、「日本の高校生のレベルはとても高く、試合運びが上手だった。もっと柔道を勉強したくなった」と話しました。海外で同世代の日本の高校生と試合をすることができたのは、貴重な経験だったそうです。滞在中は、三春町のご好意で会津の町を見学させていただきました。大会後は、東海大学を訪問し山下理事長に大会結果の報告等を行いました。

日中間に様々な問題がある中、この時期に福島復興支援のため来日を決定した青島柔道館の皆さんに心から感謝するとともに、下山田恵一先生、佐藤茂先生、三春町教育委員会の皆さま、暖かく迎えてくださった三春町の皆さまに心から御礼申し上げます。

日中友好南京柔道館



南京柔道チームは初来日ですが、今までに交流のあるメンバーも多くいました



真剣に光本教授の指導を受ける南京柔道館チームの選手たち

2013年6月23日～7月4日の期間、中国・南京市「日中友好南京柔道館」より柔道選手男子10名、女子12名、役員7名、計29名が来日し、東海大学を中心に強化合宿を行いました。

From June 23 to July 4, 2013, judo athletes, officials, and other members from the Japan-China Judo Friendship Center in Nanjing, China, and held an intensive training camp, mainly based at Tokai University.

2010年3月に開館した日中友好南京柔道館に、本法人では指導者及び学生ボランティアを毎年派遣、南京柔道館コーチ常東氏の長期研修を日本で行うなど様々な交流を持ってきました。しかし、南京柔道館チームを日本に招へいする機会を作ることが出来ませんでした。今回ようやく、南京柔道館チーム強化選手の招へいが実現しました。2013年9月に中国全国運動会があることから、大会出場予定の選手が来日しました。この大会は、中国で4年に一度開催されていて、各省が威信をかけて競い合う中国で一番大きな大会だそうです。

来日した役員の中には、本法人の事業で来日したメンバーもいました。劉俊林氏は、2006年～2008年の期間、北京オリンピックに向けて中国男子柔道チームを強化した際の監督で、現在は日中友好南京柔道館の館長です。2010年に半年間、東海大学柔道部で柔道指導法を勉強した常東氏も、コーチとして来日しました。また、北京オリンピックの強化選手で劉監督とともに来日していた徐志明氏が南京柔道館の男子ヘッドコーチとして来日しました。

光本健次体育学部教授が南京柔道館チームの練習をコーディネートして、東海大学柔道部とともに連日強化をはかりました。

日中間に多くの問題がある中ですが、南京から多くの選手が来日し、柔道を通じた交流ができたことに感謝いたします。今後も、本法人は中国にある2つの日中友好柔道館を支援するとともに、交流を推進してまいります。

日露友好支援事業

女子柔道指導者を受入

2012年12月5日～2013年5月27日の期間、ロシアから女子柔道指導者カーチャさんを、2012年12月5日～2013年6月14日の期間、エレナさんを招へいしました。東海大学を中心に、講道館、国際武道大学、国士舘大学、山梨学院大学、横須賀学院高校、三浦学院高校、福岡県久留米市立南築高校、福岡工業大学附属城東高校、福岡県大牟田市立白光中学校、宮崎県綾町立綾中学校、埼玉県横瀬町立横瀬中学校、濱名道場、望星学塾などで研修を行い、全日本チームの合宿にも参加しました。

From December 2012 to June 2013, we invited Ms. Ekaterina and Ms. Elena, female judo instructors from Russia. They studied the coaching methods used in Japanese judo and the Japanese language at Tokai University and other facilities.

リュセンコ・グサルヴァ・エレナさんより研修の感想です



2度目の研修を終えたカーチャさんは、講道館2段を取得しました



帰国挨拶を行うエレナさん

日本で柔道を勉強できる貴重な機会をいただき、心から御礼申し上げます。柔道指導者の育成事業に参加させていただき、充実したプログラムを勉強することができました。私はこのコーチングプログラムで、今まで体験したことのない、多くの新しい指導法を学びました。指導者として初心者の中には重要なことが多く、役に立つことばかりでした。私はロシアに帰国し、競技スポーツとしての柔道を指導します。柔道を通して学んだことを、選手たちに伝え、彼らの人生に活かすことが出来るようにしたいと思います。

研修中には、柔道だけでなく日本の文化、伝統を勉強することができました。そして、NPO法人が世界の柔道発展のために多くの支援をしていることも知ることができました。このような研修の機会を与えて下さったNPO柔道教育ソリダリティーの皆さまに、心から感謝致します。また、指導者としての心構えや柔道の技術、柔道の心を教えて下さった、光本先生に心から御礼を申し上げたいと思います。

サンクトペテルブルグ訪問

2013年3月14日～18日の期間、山下泰裕理事長、浅井信幸ロシア交流担当をロシア・サンクトペテルブルグ市に派遣しました。

We dispatched Executive Director Yasuhiro Yamashita and Nobuyuki Asai, our official in charge of Russian affairs, to Saint Petersburg, Russia from March 14 to 18, 2013.

浅井信幸ロシア交流担当より報告です



左から浅井ロシア担当、山村総領事、ラフリン氏、山下理事長、ヴォストロコフ氏

山下理事長と3月14日から18日までロシアを訪問し、プーチン大統領の柔道恩師として知られ、本法人との交流を続けているアナトリー・ラフリン先生の道場で柔道教室を行いました。

3月15日は、山下理事長はロシア新聞の取材を受け、柔道の哲学、ロシアの柔道やサンボ、レスリング五輪競技残留などについて丁寧に答えていました。その後、在ロシア日本大使館の原田親仁大使の昼食会に招かれ、スポーツを通じた日露友好親善交流について意見交換しました。ロシア側からは本法人の支援者であるシェスタコフ氏(ロシア国会議員・国際サンボ連盟会長)らが出席しました。

3月16日は、在サンクトペテルブルグ日本領事館山村嘉宏総領事主催の夕食会に招かれました。山村氏は、外務省ロシア交流室長時代から本法人を支援して下さいます。ロシア側からはラフリン先生、息子のミハイル氏、ヴォストロコフ氏等が参加しました。これまでの本法人のロシア交流事業を振り返るとともに今後の交流について意見を交わしました。

3月17日は、国家が建設し、ラフリン先生が運営している道場で、子どもから青年まで約40人を対象に山下理事長が柔道教室を行いました。道場では技を磨くだけではなく柔道を通じた人間づくりを目指しているそうで、この道場から「柔道の心、和の心」を発信したいとラフリン先生は願っていました。執務室へと続く通路の壁に、ラフリン先生、アンドレーエフ氏(ソ連柔道初代ヘッドコーチ)、プーチン大統領、嘉納治五郎先生、松前重義総長、山下泰裕理事長の写真が飾ってありました。柔道教室には、数社のTV取材が入り「ロンドン五輪で活躍したロシア柔道を指導する山下。ロシア柔道が日本の脅威になるのでは？」という質問に、それよりも柔道を通して日露関係がより発展することが大切だと話す」と放送されました。

日露交流事業が広がりを見せ、外国からの指導者・選手受入事業で来日した、カーチャ、エレナ、そしてフローラがこのミッションに加わっていくことを期待しています。最後に、この訪露でお世話になりました皆さまに心よりお礼申し上げます。



ラフリン氏の道場で行われた柔道教室では、40名ほどの参加者があった

海外柔道普及支援事業

モンゴル男子柔道選手

2013年3月1日～29日の期間、モンゴルより男子柔道選手3名を招へいし、東海大学柔道部、全日本合宿、大阪府警、兵庫県警などで強化を行いました。

We invited three male judo athletes from Mongolia from March 1 to 29, 2013. They received intensive training at Tokai University Judo Club, All-Japan Training Camp, and other facilities.

2013年3月1日～3月28日まで、モンゴルから男子柔道選手3名を受け入れました。モンゴル柔道協会から「若手選手の日本での強化をお願いしたい」との要望が有り今回の受入れが実現しました。東海ジュニアスポーツクラブで子どもたちの指導者にあたっているモンゴル出身のゲンデン・バタエルデネ氏が熱心に面倒を見ました。日本での研修は、東海大学柔道部を中心に光本健次体育学部教授の指導の下、東海大学、大阪府警、兵庫県警などで研修し、ナショナルトレーニングセンター(NTC)で行われた全日本合宿に参加するなど、多くの練習相手と稽古を行いました。



東海大学武道館前の桜の前でゲンデン氏(左)と選手たち



同時期に研修を行っていたミャンマーチームと講道館などを訪問



ナショナルトレーニングセンターで行われた全日本の合宿に参加

ガンボルド・ヘルレン選手(-60kg)

東海大学にて1ヶ月間大変お世話になりました。その間に様々な勉強をさせて頂きました。経済的また精神的にも多くの支援をして下さり、本当に感謝しております。ありがとうございます。帰国後はこの経験を糧にし、私は世界チャンピオンになる為に一所懸命頑張ります。

ゲンデン・バタエルデネ氏より報告です

この度、モンゴル柔道連盟ナショナルチーム選手3名の受入れ責任者として、約1ヶ月間選手受入を担当させていただきました。

人選にあたり、山下先生より、「モンゴルは軽量級の選手達が強いから、次のオリンピックを目指して頑張っている選手を招へいするのはどうだろうか?」とアドバイスをいただき、有望な3名の選手達が来日することとなりました。

練習は、光本健次先生を中心に指導していただき、とても有意義な練習ができたことと確信しています。3名は、柔道発祥の地「日本」で強い選手達と練習をする夢を持っていたと話しておりました。それが、このような形で実現したことに感激しました。夢を叶えて下さった皆さんに感謝しています。

研修前半は、東海大学柔道部を中心に練習に参加させていただいた他、全日本柔道合宿、大阪府警、兵庫県警の練習にも参加させていただきました。また、少年柔道、望星学塾にて中学生と高校生の練習も経験させていただきました。後半は日本の伝統、文化について京都、奈良に研修旅行に行かせていただきました。自分の目、手で日本文化を感じる事が出来ました。選手達には、一所懸命やっている柔道とはどのように生まれ、広まったのかを少しでも理解してもらいたいと思いました。

少しの間でしたが、母国の選手達の受入れを担当し、とても楽しい時間を過ごすことができました。皆が国へ帰って、柔道はもちろん人間的にも成長した姿を見せて欲しいと思っています。

モンゴルでは、2008年の北京オリンピックで史上初の金メダルを獲得、2009年に世界チャンピオンが誕生してから柔道が非常に盛んになり、練習する子どもたちが急増しています。しかし、練習環境や指導者が不足しているのが現状です。そんな状況下でも努力と気持ちの強さで立ち上がり、チャンスを生かしている選手もいます。私はこれからも柔道を通してモンゴルと日本が良い関係を続けられるように頑張っていきたいと思っています。支援して下さいた皆さんに心からお礼申し上げます。

ブーエバートル・ヒシグバヤル選手(-66kg)

私は、日本で柔道の練習だけを頑張るという気持ちで来日しました。来日は3度目ですが、2回は練習と試合のみで日本文化を知る事はありませんでした。今回は、1ヶ月の研修期間に大好きな柔道をやらせていただき、様々な選手と練習することが出来とても嬉しく思っています。また、日本の文化や技術に感動しました。日本人はとても努力家で一つの事を諦めず、心優しいと思います。モンゴル人も日本人のように努力して良い国を築いていけたら素晴らしいことだと思います。山下先生をはじめ、スタッフの皆さん、ゲンデン先輩、本当にありがとうございました。

ガンバートル・オドバヤル選手(-73kg)

日本での研修の機会をいただき、精一杯練習をやろうと覚悟を決めて来日しました。私は、日本人選手とたくさん稽古をしたいと前から思っていました。それを実現させていただき、皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ゲンデン先輩がずっと言っていた「柔道はただ強いだけでは無く、相手を思いやる気持ちを持つ事が大事」と言うことを日本で身をもって体験しました。これからこの経験を活かして、今後も頑張りたいと思っています。ありがとうございました。



東海大学柔道部での強化の様子

ミャンマー男子柔道チーム

2013年3月2日～31日の期間、ミャンマーより男子柔道選手5名、監督1名を招へいし、東海大学柔道部、全日本合宿などで強化を行いました。

We invited 5 male judo athletes and a coach from Myanmar from March 2 to 31, 2013. They received intensive training at Tokai University Judo Club, the All-Japan Training Camp, and other facilities.



全日本選手権大会の見学のため、ミャンマー・ロシア・モンゴルチームで日本武道館へ



アシスタントコーチとしてミャンマーチームを指導するカーチャさんとプールにて



東海大学柔道部の練習に必死についていく選手

2012年6月外務省ミャンマー文化・スポーツ交流ミッションの一員として、山下理事長がミャンマーに派遣されました。テイン・セイン大統領を表敬訪問した際、大統領より2013年12月にミャンマー、ネピドーで開催されるSEA Games(South East Asian Games:東南アジア競技大会)への協力の要請がありました。そこで、2013年3月1日～30日の期間、監督1名、男子柔道選手5名を招へいし、東海大学男子柔道部などで強化を行いました。光本健次体育学部教授の指導の下、同時期に研修を行っていたロシア人女子柔道指導者やモンゴル男子柔道選手らと練習を行い、全日本合宿に参加するなど日本の柔道だけでなく国際的な研修となりました。

本法人では、海外からの研修生が日本文化に触れられるように京都や奈良、広島への研修旅行を実施しています。今回は、モンゴルチーム、ロシア人指導者らと奈良・京都へ研修旅行に行きました。

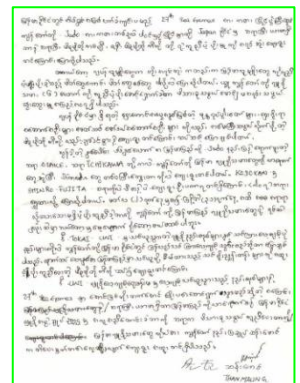
帰国後、彼らの練習の拠点はヤンゴンからミャンマーの首都ネピドーに移動になるそうです。帰国しても日本で学んだことを活かして、SEA Gamesで多くのメダルが取れるよう、練習に励んでいただきたいと思います。

ミャンマー男子柔道チーム監督 タン・モン氏からのお礼状です

第27回SEA Gamesは、ミャンマーが主催国となり2013年に開催される予定です。私たち柔道競技も参加を予定しており、それに向けて日本で強化をさせていただき心よりお礼申し上げます。日本人は、昔からミャンマーに支援を行って下さる親しい友人であることをお伝えしたいと思います。今回の研修中にも、私たち柔道選手を家族のように、心から暖かく受け入れ、支援して下さいました。柔道だけでなく、様々な日本文化にも触れさせていただきました。

今回、16年前にミャンマーで柔道コーチをして下さった多くの先生方が、私たちに会いに来て下さり、再会することが出来ました。感謝申し上げます。また、講道館の藤田真郎先生に、この場をお借りして心から感謝していることをお伝えしたいと思います。日本研修中、帰国の日まで支援していただいた多くの事を、私達ミャンマー柔道選手は、心より感謝し、永遠に忘れることはできません。東海大学で教えていただいた柔道技術と指導法を帰国後ミャンマーでの指導に生かし、練習を続けます。そして、日本の柔道場から学んだ技術で、第27回SEA Gamesで優勝できるように一生懸命努力を続けます。

ミャンマー柔道連盟会長が山下先生にお願いしたことに対し、先生は親身になって応えて下さいました。ミャンマー柔道選手の代表として、タン・モンが感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。



留学生柔道体験

2013年6月26日に東海大学日本語別科の留学生5名を対象に、白瀬英春体育学部教授(柔道部総監督)の指導の下、柔道の体験授業を行いました。

On June 26, 2013, we held a lesson to offer a judo experience to students of Tokai University Japanese Language Course for International Students.



技の説明を受けるシュテファニーさん

黄天(中国)君

今回初めて自分の目で柔道を見ました。柔道部の先輩が、たくさんお手本を見せて下さいました。明治時代に生まれ広まった柔道が、今ではオリンピックの種目になり、世界的に認識されるようになりました。私は柔道を体験し、日本特有の「道」の精神を共に学んでいると思いました。

アルルワイリー・マビン君 アルハヌート・アブドゥラ君 (サウジアラビア)

最初は「見る」だけだと思って体験授業に申込をしました。柔道衣を受け取って「する」のだとわかり、戸惑いました。でも、柔道衣を着ると、不思議とやる気が出てきました。実際にやってみて、とても面白かったです。日本語だけで授業を行って下さったのも良かったです。

クラーツ・シュテファニーさん (ドイツ)

私は、何年も前から武道に関して興味がありました。その選手たちにとって大切な場所である武道館で、柔道の体験ができると聞いたとき、とても嬉しくなりました。柔道の先生と柔道部の皆さんが、私たちに対して、優しく我慢強く教えてくださいました。本当に感謝しています。楽しかったです！

今後の予定 2013年7月～

日中友好青島柔道館



2013年7月4日～9日の期間、日中友好青島柔道館の子どもたちが宮城県豊里町「第35回山下旗柔道大会」に出場しました。

From July 4 to 9, 2013, children from the Japan-China Judo Friendship Center in Qingdao visited Japan to take part in the 35th Yamashita Flag Judo Tournament held at Toyosatocho, Miyagi Prefecture.

柔道シンポジウム



2013年7月14日、暴力の根絶プロジェクトのパネルディスカッションを開催しました。

A panel discussion under the Anti-Violence Project was held on July 14, 2013.

海外柔道普及支援事業



2013年7月23日～29日、ゲンデン・バタエルデネ氏をタイで行われた国際審判員試験講習会に派遣しました。

From July 23 to 29, 2013, Mr. Genden Baterdene was dispatched to Thailand to attend a seminar towards the International Referee Examination.

柔道による青少年育成事業



2013年7月31日～8月3日の期間、望星学塾の国際親善週間を支援しました。

From July 31 to August 3, 2013, we supported the International Friendship Week programs of Bosei Gakujuku, an educational institute within Tokai University.

外国からの選手受入事業



2013年11月より1ヶ月間イスラエル及びパレスチナより柔道指導者各1名を受入れます。

We will accept one judo instructor from each of Israel and Palestine for one month from November 2013.

講演会事業



2013年12月6日に第15回講演会を開催する予定です。

The 15th lecture meeting will be organized on December 6, 2013.

お知らせ

アナトリー・ラフリン先生がお亡くなりになりました



プーチン大統領の柔道の師、元ロシア柔道連盟副会長のアナトリー・ラフリン先生が2013年8月7日にサンクトペテルブルグでお亡くなりになりました(享年75歳)。2008年に開催された本法人の講演会では「強く美しい嘉納治五郎先生が示した柔道に回帰したい。ロシア柔道の課題は『指導者の指導』である」とお話され、日露の柔道交流を大切にされました。ラフリン先生は、日本人指導者の受入れ、日本へのロシア人指導者の派遣など、多くの本法人の活動にご賛同いただきました。ご冥福をお祈りいたします。

子ども用柔道衣を募集しています！

洗濯した柔道衣を上下(帯)をセットにして、下記住所に着払い宅配便(ヤマト運輸又は佐川急便)でお送り下さい。

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1 東海大学柔道研究室内
NPO法人柔道教育ソリダリティー事務局 宛

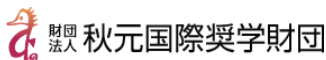
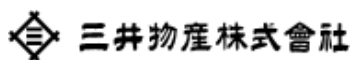
最新活動は、ホームページをご覧ください！

ホームページでは、柔道教育ソリダリティーのバックナンバー講演録・会報誌を無料でダウンロードすることができます。印刷物でご要望の方は、事務局0463-58-1211(内線3524)までご連絡下さい。

<http://npo-jks.jp>

2013年度 寄付・団体会員一覧

— Supporter —



三井物産(株)、公益財団法人 竜の子財団、(学)東海大学、ミズノ(株)、三菱商事(株)、日本たばこ産業(株)、(株)セレモアつくば、羽田タートルサービス(株)、アスカコーポレーション(株)、(株)わくわくコーポレーション、東建コーポレーション(株)、(株)神田製作所、(株)ランクアップ平野屋、全日本空輸(株)、(株)小松製作所、大成建設(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)東芝、秀和ビルメンテナンス(株)、(株)三菱東京UFJ銀行

(株)アサヒ、(株)アットライズ、WITH(株)、植木会計事務所、(株)S・Vワークス、(株)オピカ、(学)加計学園、(株)霞ヶ関東海倶楽部、神奈川柔道連盟、川中不動産(株)、共和電子(株)、京王観光(株)、(株)廣洋、(学)国際学園 九州医療スポーツ専門学校、相模トラリアム(株)、サポートセンター(株)、(株)三枝協、(株)鈴廣蒲鉾本店、総合警備保障(株)、(株)ダイナミックパースンズ、公益財団法人竜の子財団、(株)築地すし好、(株)テック、(株)東海教育研究所、東海教育産業(株)、東海大学女子柔道部、(株)東海ビルメンテナンス、公益財団法人 東京都柔道連盟、(医)徳真会グループ、土志田建設(株)、農業生産法人十津川農場、(株)豊蔵コーポレーション、日本BS放送(株)、(医)白磁会中ノ島センタービル歯科、(株)博報堂DYメディアパートナーズ、浜友観光(株)、早川繊維工業(株)、(株)富士サービス、(株)藤野製作所、(株)マツヒロ、丸竹コーポレーション(株)、(有)みのさんファーム、武蔵野市柔道連盟、明光産業(株)、(医)明正会、(株)メディカル ラボ、(株)山口工務店、横浜市柔道協会、(学)了徳寺学園、(学)了徳寺大学、(株)レイクウッドコーポレーション

(50音順)

個人会員に関しては、ホームページ中の協力者の紹介をご参照下さい。

<http://npj-jks.jp>

	個人	団体
正会員	231	34
寄付	29	15
アドバイザー	37	

入会のご案内

柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁の認定を受けました。本法人への寄付は寄付金控除、損金算入など税の優遇措置の対象となります。本法人の活動は、皆さまからのご寄付、ご支援によって運営されています。本法人の趣旨にご賛同の上、ご協力いただけましたら幸いです。

会員(個人) 一口 5,000円

(団体) 一口 50,000円 ※一口以上から受け付けます

寄付 特に定額はありません

■ 郵便振替

口座記号番号: 00200-7-37175 加入者名: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

■ 銀行振込

三菱東京UFJ銀行 平塚駅前支店 普通口座1573953

口座名称: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕

トクヒ) ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ

横浜銀行 東海大学駅前支店 普通口座1768726

口座名称: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕

トクヒ) ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ